

令和2年度学校自己評価システムシート (県立熊谷工業高等学校)

目指す学校像	地域の信頼と期待に応える魅力ある工業高校
--------	----------------------

重点目標	1 確かな学力と専門的な知識・技術を身に付けたスペシャリストを育成する。 2 一人一人の希望を実現する進路指導を推進する。 3 心豊かでたくましく、規律ある態度を育成する。 4 積極的な地域連携により、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 5 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	【現状】 ・生徒は各学科の専門的な学習に意欲的に取り組んでいる。アンケート結果より84.4%の生徒が授業は分かり易いと感じている。 ・コンテストの参加や資格取得等により生徒の学習意欲が高まっている。 【課題】 ・生徒に客観的な自己の学力を把握させ、学力を向上させる必要がある。 ・研究授業や継続的な授業改善を行い、更なる学力・技術力の定着を図る必要がある。 ・取得資格を精選する必要がある。	・基礎学力の定着と学力の向上 ・専門知識と技術の確実な習得	①生徒・保護者のアンケート結果を共有し、授業改善を行い、基礎学力を定着させる。 ②年3回以上研究授業を実施し、授業力の向上に取り組む。 ③英・数・国の学力基礎診断テストを実施したか	①アンケートの授業に関する項目の肯定的な回答90%以上 ・成績優良者の前年比増と成績不振科目数の前年比減 ②年3回以上の研究授業を実施したか ③英・数・国の学力基礎診断テストを実施したか	・基礎学力診断テストを実施できたので、有効に活用する。 ①授業が分かり易いと答えた生徒は、91.2%で前年比6.8ポイント増加。2学期の優良者の評定平均8.82は前年より0.2ポイント増加。成績不振科目数は前年比で2学期3.6%増。 ②年3回の研究授業を実施した ③英・数・国の学力基礎診断テストを実施した。	A	課題：学年により成績不振者数に大きな差がある。 改善策：学校満足度調査の分析結果をもとに授業改善・学習意欲及び学力の向上に取り組む。基礎学力診断テストを学年ごとに実施し、その分析結果を学習指導に活かす。
2	【現状】 ・89.5%の生徒が進路指導行事によって進路に対する意識を高めている。1学年の段階から3年間を見通した進路指導計画のもと充実した進路指導を実施している。 【課題】 ・学年毎の進路指導を工夫し、早めの意識付けをする必要がある。 ・就職内定率100%を維持する。 ・第1希望の就職内定率を向上させる。	・希望や目標を実現する進路指導の推進	①学年毎の進路指導行事の見直し及び改善により第1希望の就職内定率を向上させる。 ②生徒の希望状況を考慮した企業・大学見学を実施する。大学進学希望者には入試形態に合わせた進路指導を実施する。	①生徒の進路意識の向上と第1希望の企業への就職内定率90%以上、就職内定率が100%となったか ②指定校推薦者数及び進学決定率の前年度比増	・コロナ禍ではあったが、生徒の希望に応じた進路を実現することができた。 ①第1希望の企業への就職内定率90%であった。担任・学年・進路指導部を中心に進路行事・ガイダンスを実施し進路意識向上に繋がった。HPによる求人票の閲覧等、情報提供や相談を充実させた。 ②求人数は3,076件、前年比17%減。就職内定率100%達成(1月)。公務員(埼玉県職員)7名内定。4年制大学への合格者数は38%増加し33名(昨年24名)であった。専門学校は25名が進学予定。	A	課題：学校満足度調査から、進路指導行事によって進路に対する意識が高まっている。今年度インターンシップが実施できなかったことを踏まえた取組が必要である。各大学の入試情報を共有し、対応する必要がある。 改善策：企業のニーズを把握し、進路行事に反映させる。4大進学希望者に対して、1・2年次の進路指導で、各大学の入試に応じた指導を行う。
3	【現状】 ・部活動を中心に規律ある態度を育成し、学校全体は落ち着いている。 【課題】 ・全ての教育活動を通じて協調性や規律ある態度を更に伸ばす必要がある。 ・2学期以降の遅刻者数増加を防止する。 挨拶を徹底する。 ・2学期以降の自転車による交通事故が増加傾向にある。 ・自動二輪等の未然の事故防止。	・人間性の向上と時間や規律を守る態度の育成	①授業・部活動・学校行事等とおして、統一的な指導を行う。 ②全教職員で継続的なチャイム着席・挨拶指導・多遅刻者の指導に取り組む。 ③自転車の事故防止についての指導を1学期中に生徒指導部・学年を中心に実施する。スクエアドストレードによる交通安全講習を行う。 ・生徒指導部を中心に免許取得者への安全指導と講習会参加を徹底する。	①アンケート調査の規範意識状況、部活動参加率の実績の前年度比増 ②生徒の挨拶の状況 遅刻者数の減少 ③登下校時の自転車の並列運転や傘差し運転の状況 ・1学期中に講習会を実施したか ・スクエアドストレードによる交通安全講習を実施したか ・自転車、自動二輪等の事故件数 ・全ての対象者が自動二輪等の安全講習会に参加したか	・時間や規律を守る生徒の育成については概ね達成できた。 ①学校満足度調査で95.5%の生徒が自覚をもって校則を守っている。部活動に積極的に取り組んだ生徒は、79.3%(昨年79.9%)である。 ②学校満足度調査で89.8%の生徒が進んで挨拶を心がけている。遅刻者数は2学期に増加傾向にある。 96.7%(昨年95.2%)の生徒が自覚を持って校則を守っている。 ③2学期に交通安全講習会を実施した ・スクエアドストレードによる交通安全講習は実施できなかった。 ・自転車の事故件数は軽微なものの5件・全ての対象者が自動二輪等の安全講習会に参加した。	A	課題：遅刻については、アンケート結果より生徒は防止に対する意識はあるが、減少していない点が課題である。自転車通学者の割合が多いことを踏まえた交通安全教育が必要である。 改善策：教職員、PTA、生徒会による挨拶運動を実施し、遅刻の抑止にも繋げる。 生徒指導部、学年による遅刻防止週間等を実施し、遅刻者数を減少させる。 スクエアドストレードによる交通安全講習を実施する。
4	【現状】 ・インターンシップを継続実施し地元企業との連携に取り組んでいる。 ・出前授業・公開講座・学校見学会等により開かれた学校づくりに取り組んでいる。 【課題】 ・学校の情報を積極的に発信するとともに、地域連携を強化する必要がある。 ・生徒募集に関する取組の精選や見直しを行う必要がある。 ・地域の要望等を踏まえたイベント等への参加。HPの充実等学校情報の発信を工夫する。	・地域連携と積極的な情報発信による、開かれた学校づくり	①地元中学校を中心に通知等により出前授業、体験入学、コンテスト等を周知し実施したか ・実施後の中学校等の評価 ・生徒募集に関する取組の精選や見直しを行ったか ・全学科の志願倍率が1倍以上になったか ②大学、専門学校、企業との連携状況 ③学習成果物を活用し、地域のイベント等に参加したか ・学期に1回以上の広報紙を複数の学科で発行する。	①地元中学校を中心に通知等により出前授業、体験入学、コンテスト等を周知し実施したか ・実施後の中学校等の評価 ・生徒募集に関する取組の精選や見直しを行ったか ・全学科の志願倍率が1倍以上になったか ②大学、専門学校、企業との連携状況 ③学習成果物を活用し、地域のイベント等に参加したか ・学期に1回以上の広報紙を複数の学科で発行したか	・開かれた学校づくりについては、中学校への働きかけとインターンシップ実施に向けて各企業との調整が必要である。 ①・出前授業実施後の評価は良好であったが、実施回数が少なかった。 ・生徒募集の取組を精選し、中学校訪問は実施しないこととした。 ・R2.1月発表の倍率が全学科で1倍以上とならなかった ②新型コロナの影響で中止になるものがあったが、可能な限り大学や企業との連携を行った。 ③新型コロナの影響で地域のイベントが中止になり、参加することができなかったが、学期に1回以上の広報紙を発行できたが、複数の学科の取組とすることができなかった。	B	課題：新型コロナの影響でインターンシップ等の計画していた取組が実施できなかった。極力実施に向けて検討する。 改善策：インターンシップについては、感染状況を踏まえ実施の可否等を検討する。出前授業は、本校から中学校に働きかける。学校説明会等の生徒募集行事は6月から11月までの実施を中心に実施する。夏休みの中学校のクマコー体験(小学生4~6年対象)を実施する。地域のイベント参加等の新しいタイプの募集対策を行う。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日 令和3年3月1日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・充実した設備と最新の技術を学べる環境はとても素晴らしい。今後も、より良い環境を提供する体制を続けてほしい。 ・学力診断テストの分析と活用を検討し、成績不振者数の減少や学力向上に繋げてほしい。学力だけでなく、人間教育も引き続きお願いしたい。 ・コロナの影響で多くの大会やコンテストが中止となった。前年度良い結果だけだけに残念である。今年度同様、コンテストや検定等が中止になることを想定し、生徒の意欲が低下しないような取組の工夫をしてほしい。 ・就職・大学・専門学校等、全てにおいて志ある生徒の後押しをする進路指導を推進してほしい。 ・進路指導では、結果に至るまでのプロセスを大切にほしい。アンケート結果から、生徒の満足度と保護者の満足度に乖離がなく、良い結果が出ている。 ・4大進学コースの成果が進路結果に表れている。この教育課程を継続してほしい。 ・校内で服装規定を遵守していない生徒を時折見かける。校内での風紀を守るためにも定期的に指導を行うべき。 ・遅刻の状況を数値化し、遅刻の傾向や状況を生徒・職員が認識する必要がある。専門高校として、時間や期限を守ることの指導は重要である。 ・挨拶ができる生徒が多いことは、良い学校の証である。日々の指導の成果が結果に出ている。自転車通学が多く指導は大変だと思うが、交通安全についても引き続き積極的な指導をお願いしたい。 ・出前授業は中学生が学校の特色を知る良い機会である。今後も特色を生かした夢のある学校経営に期待する。 ・コロナの影響もあったと思うが、学校の魅力が十分に発信されていない。今年度実施したインターネットを活用した配信や広報に力を入れてほしい。 ・コロナの影響で中学校への活動が停滞したことはやむを得ない面もある。この状況を踏まえ、高校と中学校双方のIT活用などを視野に入れた取組の推進が必要である。 ・熊谷工業高校は、県内のインターンシップ先進校である。コロナの影響が今後どの程度あるかわからないが、来年度実施できることに期待したい。 	